MORGAUA QUARTET

モルゴーア・クアルテット

演奏活動30周年

Vol. 2

モルゴーア・ロック祭♪

プログレの嵐よ、築地に吹き荒れろ!

二〇二三年六月二十八日(水)

荒井英治 ARAI EIJI

藤森亮一 FUJIMORI RYOICHI

戸澤哲夫 TOZAWA TETSUO

小野富士 ONO FUJI

◆指定席(限定34席)4500円
◆一般(自由席)4000円
◆学生(自由席)2000円
※指定席はミリオンチケットのみで取り扱い

浜離宮朝日ホール

19:00開演
(18:30開場)

オール・ロック プログラム

※曲目は予定であり、変更の可能性もあります。

- キング・クリムゾン = レッド / 太陽と戦慄パート2
- EL&P = トリロジー / 未開人
- ピンク・フロイド = 原子心母
- UK = デンジャー・マネー
- ジェネシス = ウォッチャー・オブ・ザ・スカイズ
- イエス = シベリアン・カートゥル(荒井version!) 他…

チケット販売
朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990
e+イープラス https://eplus.jp
ローソンチケット 0570-000-407
ミリオンチケット 03-3501-5638
※ウェブサイトからのお申込はセブンイレブンでのお引取り

コンサートマネジメント
ミリオンコンサート協会 03-3501-5638

※裏面の「お客様へのお願い」をご確認の上ご来場ください。

モルゴーア・クァルテットがロックに手を染めたのは1997年の秋のこと、結成から5年が経過した頃です。天からの啓示のように降ってきた企画。『ディストラクション』と名付けられることになったCD録音が始まりです。クラシックを生業とする4人が『越境』してロックする！おいおい待てよ、ドラムもヴォーカルも無しでワイルドなロックになるのか？？……そうです、その答えを我々は出したのです。

ロックだからこそ表現されるものはあります。それは『怒り』です。怒りというのはロックを定義するのに不可欠な根源的な要素です。社会の理不尽さに黙ってはいられない行き場のない憤り……それがロックを急速にクリエイティブに発展させました。なかでもプログレッシブ・ロックと呼ばれるジャンルは構成と緻密なアレンジを重要視します。ですから例えば、他のロック・ミュージシャンがカバーしてもほとんどアレンジや構成が変化することはないのです。完成された楽曲をいかにライブで再現させるかが眼目となります。クラシック音楽との共通項がここにあります。

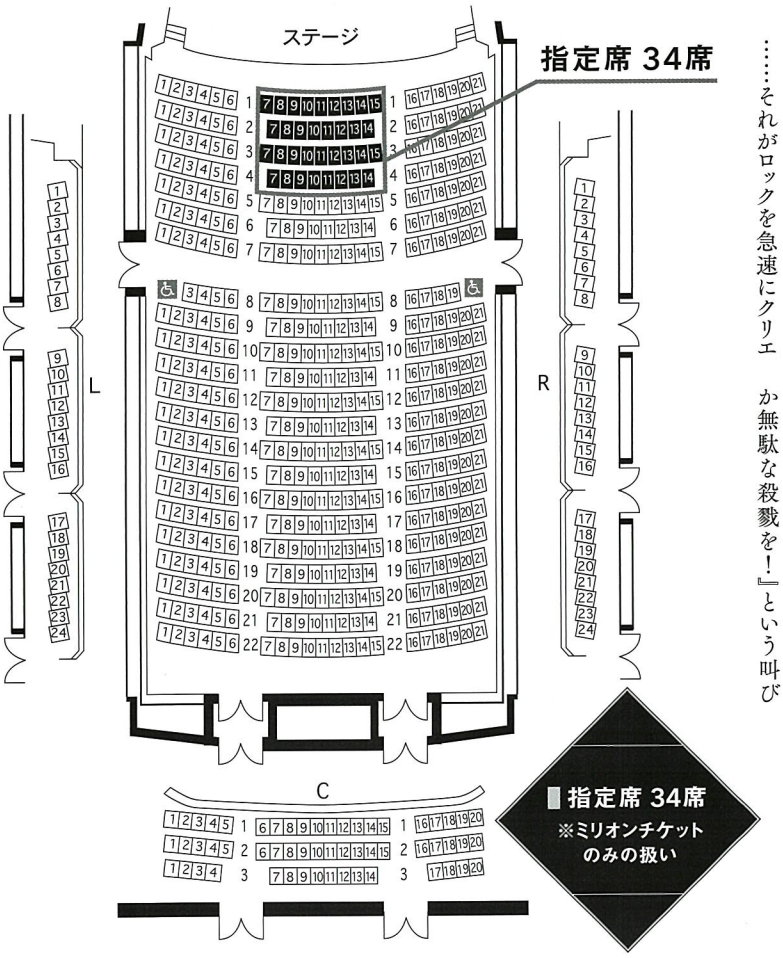
こう述べてきますと、モルゴーアがショスタコーヴィチの延長線上にプログレを置いている理由もおわかりいただけるのではないでしょうか？

念のため申し添えますと、このプログレは『いつまで続けるのか無駄な殺戮を！』という叫びが世界中で渦巻くベトナム戦争末期にロンドンで産声をあげたことを忘れてはなりません。生まれるべくして生まれた音楽です。

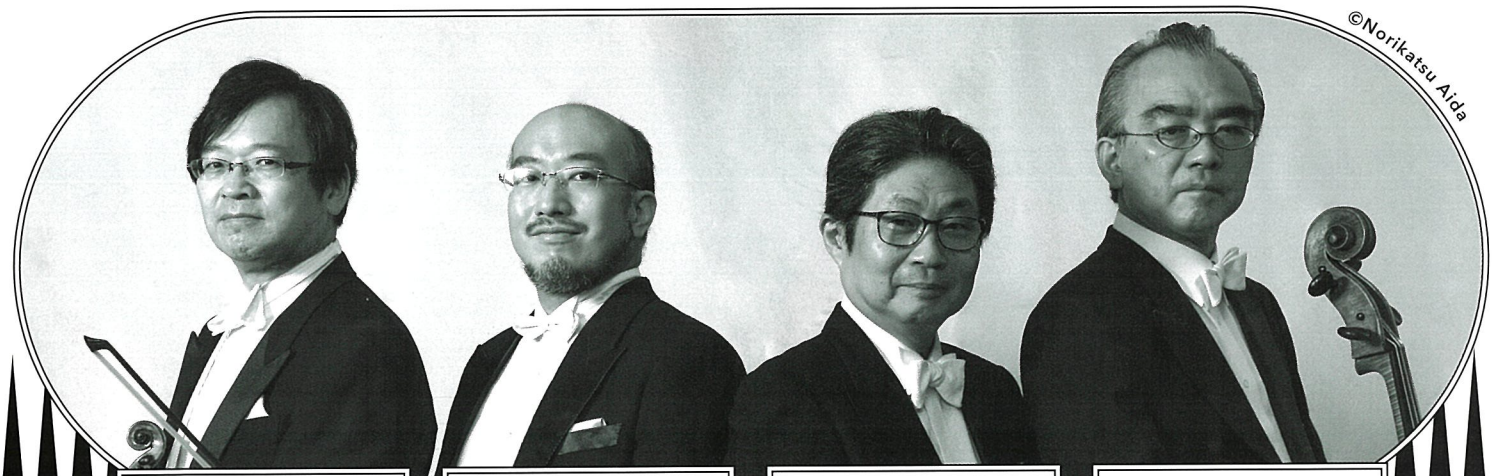
このたびプログレ歴25年のモルゴーアは、久しぶりに『プログレ者必殺感涙必至演目』を引っ提げ、新たに世に問いたいと思います。無論、いまだに戦争という狂気を止められない、止めさせられない、人間の英知とやらの愚かさへ、渾身の憤りを込めたとしても当然でしょう。なぜなら、それでこそロックなのですから！

我ら、精神正常者モルゴーア・クァルテット、ここにあり。不退転の決意、『プログレ祭！』です。

荒井英治



QRコードでミリオンコンサートHPの「お客様へのお願い」をご確認の上ご来場ください。



第1ヴァイオリン
荒井英治
（あらい えいじ）
元東京フィルハーモニー交響楽団
ソロコンサートマスター

第2ヴァイオリン
戸澤哲夫
（とざわ てつお）
東京シティ・フィルハーモニック
管弦楽団コンサートマスター

ヴィオラ
小野富士
（おのふじ）
元NHK交響楽団
次席ヴィオラ奏者

チェロ
藤森亮一
（ふじもり りょういち）
NHK交響楽団
首席チェロ奏者

MORGAUA QUARTET（モルゴーア・クァルテット）はショスタコーヴィチの残した15曲の弦楽四重奏曲を演奏するため1992年秋に結成された弦楽四重奏団。翌'93年6月に第1回定期演奏会を開始。2001年1月の第14回定期演奏会でショスタコーヴィチの残した弦楽四重奏曲全15曲を完奏。同年4月、第2ヴァイオリンを青木高志から戸澤哲夫に交代。ショスタコーヴィチ没後40年（2015）から生誕110年（2016）をつなぐ「ショスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全15曲演奏会」を'15年大晦日から'16年元旦にかけて「横浜みなとみらい小ホール」で開催。一晩で全曲演奏するという瞠目のプログラムで多くの聴衆を集め、4度目の完奏。'12年6月と'14年5月、そして'17年3月に日本コロムビアからリリースした、荒井英治編曲のプログレッシヴ・ロック・アルバム《21世紀の精神正常者たち》《原子心母の危機》《トリビュートロジー》により、ボーダーレスな弦楽四重奏団としても高い評価を受ける。2017年9月「第47回JXTG音楽賞 洋楽部門本賞」、2018年6月「第28回みんゆう県民大賞 芸術文化賞」などを受賞。モルゴーア・クァルテットの斬新なプログラムと曲の核心に迫る演奏は、常に話題と熱狂を呼んでいる。「モルゴーア」はエスペラント語（morgaŭa＝明日の）に原意を持つ。